

【1. 必修領域:教育の最新事情】

講習内容		国の教育政策の動向及び世界の教育をめぐる状況、教員としての子ども観・教育観、発達に関する最近の研究成果、子どもの生活の変化と子ども等に係る基本的知識の習得と理解を深めることを通して、今日教師に課せられている諸課題についての認識と自覚を深めることを目指します。					
講座	講座テーマ	内 容			受講対象	時間	担当者
		講座概要	到達目標	キーワード			
①-3	コンピテンシーの育成という視点に立った教育の世界的動向	2005年にOECDが提案した「コンピテンシー」という新しい能力概念は、日本をはじめ各国の教育に大きな影響を与えつつある。本講座では、その世界的な影響を概観するとともに、主に市民性教育や道徳教育に焦点を当てて、「コンピテンシー」という能力概念が、日本も含め各国の教育をどのように変えようとしているのかを考えてみたい。	1. コンピテンシーという能力概念を理解すること 2. コンピテンシー概念が日本の教育に与えている影響を理解すること 3. いくつかの先進的な諸国における市民性教育や道徳教育の取り組みの概要を知ること	「コンピテンシー」 「DeCeCoプロジェクト」 「市民性教育」「道徳教育」	—	1.5	宮嶋 秀光
①-2	発達研究の現在—発達障害の理解と対応—	主に自閉スペクトラム症(ASD)やADHDといった発達障害に焦点を当て、発達障害の遺伝・環境因に関する諸説、ASDとオキシトシン、発達障害児と被虐待児との鑑別困難さ、ADHDへのマインドフルネスの効果など発達心理学および周辺領域の新しい研究知見を紹介する。講義を通して“気になる子”の背景について理解するとともに、教育現場でどのような対応が可能かについて考えていく。	1. 発達障害の理解を深める 2. ASDやADHDの子どもに対して配慮すべき対応を理解し、教育現場で可能な支援の実践について具体的なイメージを持つことができる	発達障害・ASD (Autism Spectrum Disorder)・ADHD (Attention Deficit Hyperactivity Disorder)	—	1.5	原田 知佳
①-3	学校教育についての省察—子ども観の変遷と学校教育—	学校を取り巻く状況の変化により、今日、教員には教育的な理性(エデュケーションアル・マインド)のみならず、法的な理性(リーガル・マインド)も強く求められている。このような状況に至った理由を、今日求められている授業構成や子ども観の変遷、子どもの生活の変化によって生じた学級経営における今日的な問題の一例から確認する。この確認を通しながら学校教育についての省察を試み、自己の教員としての子ども観や教育観を問い直すことで、現在求められている教員の在り方についての理解を深める。	1. 現在の社会的状況から、今日の教員に対する社会的要請を理解し、教員としての在り方を省察することができる 2. 児童生徒を取り巻く環境の変化により、求められる教育観が変わってきていることを理解できる 3. 各時代の特徴といえる子ども観と子どもの生活の変化を把握することで、子ども観に対する考えを持つことができる 4. 状況の変化に対応した教員の果たすべき役割について理解を深め、自己の実践に結びつけて考えを深めることができる。	「求められる教育観」 「子ども観の変遷」 「子どもの生活の変化」 「教員の役割」	—	1.5	嶋口 裕基
①-4	子どもが抱える心の問題—子どもと保護者に寄り添うには—	近年、いじめ、不登校など、子どもを取り巻く問題は深刻化しやすく、対応が益々難しくなってきた。また、貧困家庭や発達障害の子どもを支える家庭などでは、保護者も複雑な事情の中で、悩みを抱えつつもなんとか学校に子どもを送り出していることが多い。この講座では、そのような子どもや保護者の心の問題を理解し、彼らに寄り添い、支える方法について考える。	1. 子どもや保護者の抱える問題の現状、背景について理解する。 2. 子どもや保護者に寄り添うために必要となるカウンセリングマインドを理解し、習得する。 3. 子どもや保護者を支えるための具体的な対応策を考える。	「いじめ」 「不登校」 「カウンセリングマインド」 「発達障害」 「貧困」	—	1.5	木村 美奈子